

韓国人学習者と中国人学習者の聞き取りにおける外来語の認知傾向

田中節子*

(e-mail: tanakasetuko0303@yahoo.co.jp)

目次

1. はじめに	4.2. 調査対象者
2. 先行研究と本稿の立場	4.3. 調査期間
3. 日本、中国、韓国での外来語の受容の特徴	4.4. 聞き取りテストと認知アンケートの実施方法
3.1. 日本の外来語受容の特徴	4.5. 聞き取りテストの内容
3.2. 中国の受容のあり方	5. 調査の結果
3.3. 韓国の受容のあり方	5.1. 中国人学習者の結果
3.4. 日中韓の外来語受容の比較	5.2. 韓国人学習者の結果
4. 調査の目的と方法	6. 両者の聞き取りと認知の傾向
4.1. 調査の目的	7. 今後の課題

1. はじめに

日本語の語彙は和語、漢語、外来語の3種類に分けられる。その中の外来語は外国から入ってきた借用語であるが、日本では主として欧米から入ってきた言葉を指すようになった。近年はそうした欧米語の中でも英語起源とする言葉がたくさん流入してきている。インターネット関係の言葉はほとんど英語起源の外来語と言ってもいいぐらいである。世界的なグローバル化の中で英語は突出した地位をしめるに至っている。韓国でも中国でも日本でも第1外国語として中学や高校で習う外国語はほとんど英語である。

* 中央大学校日語日文学科助教授

中国と韓国の日本語学習者が日本語の外来語を聞いてその意味に達する時に英語の力によるのか、自国の中の外来語の力によるのか、日本語でそのまま理解しているのかということは興味深いテーマである。ここではこのテーマを取り上げてみたい。

2. 先行研究と本稿の立場

こうした外来語を聞いて意味に達する方法を研究した先行研究は探し出すことができなかった。ただ、三か国における外来語受容の現状については先行研究があるので、ここでは3か国の現状を踏まえて比較を試み、日本語の外来語を聞くときの母語からの干渉といった問題点を明らかにしたい。

本稿ではどのように聞いて意味を理解したかを明らかにするものであるが、意味を理解することを認知という言葉で表現する。認知の定義については大辞泉という辞書の定義を採用する。以下はその定義である。

《cognition》心理学で、知識を得る働き、すなわち知覚・記憶・推論・問題解決などの知的活動を総称する。

3. 日本、中国、韓国での外来語の受容の特徴

3.1 日本の外来語受容の特徴

日本語の中に外国語を受容するときの特徴は漢語を日本語の中に取り込んだ時と基本的には同じである。日本語は音節構造が (C) V という開音節である。Cの子音で終わる閉音節の外国語が入ってきたときに、Cの子音にVの母音が挿入され開音節にかわる。また日本語にはない音、音素が入ってくる。あるいは元々の音素が日本語で近似だと考えられた音素に変わる。そして意味的には原語と全く同じではなく、ずれて使用されるようになる。さらに和製西欧語が作られるようになる。

現在、外来語といえば英語起源の言葉が圧倒的に多い。英語は基本音節が (C)(C)(C)V(C)(C) という子音で終わる構造をもつ言語である。日本語化するにあたっての一定の規則がある。『日本語はつおん英語版¹⁾』からいくつかの例をまとめて下記に示す。ただし下記の例は一部でもっと多くの規則があり、規則から外れる例外もあることを明記しておく。

1) 国際交流基金 (1978) 『日本語はつおん英語版』凡人社

a. CVCVのように子音の後に母音が続く場合：日本語の音節どおりに発音する。

例：Camera → カメラ

b. -CC-のように子音が並んでいる場合：

子音の後に適当な母音を添えて発音される。

①子音[t],[d]の場合は母音[o]を添える。語末に[te],[de]である場合も[t],[d]と同じである。語末に[te],[de]である場合も同様である。

例：hint → hinto ヒント

②子音[c],[b],[f],[g],[k],[l],[m],[p],[s]の場合は母音[u]を添える。語末にこれらの子音に[e]がついても[u]を添えた形になる。

例：mask → masuku マスク

c. 長音化する場合：下線の部分が長音化する。

例： car → カー speed → スピード road → ロード
 room → ルーム copy → コピー trade → トレード
 inflation → インフレーション culture → カルチャー

d. 促音化する場合：下線の部分が促音化する。

例： back → バック tax → タックス match → マッチ
 apple → アップル mat → マット ship → シップ

e. 日本語にない音素 (th) を日本語の音韻体系の中に入れる場合：

① th → サ、シ、ス、セ、ソで表す。またはザ、ジ、ズ、ゼ、ゾで表す。

例：thank you → サンキュー the → ザ

次に原語とずれた意味につかわれるようになった外来語は多数ある。1例をあげれば「クレーム」と言う言葉は英語では当然の権利、要求で使われるが、日本語では苦情の意味で使われる。

品詞が変わった言葉もある。原語では動詞だった言葉が日本語に入って「する」をつけて動詞になり、「する」をとって名詞になったりする。「propose → プロポーズ」などがそうである。

和製英語も多数あるが、代表例をあげると野球の死球を「dead ball→デッドボール」と造語したものがある。

また日本国内では外来語を抑制しようという動きはない。現在外来語辞典に載っている外来語の数は5万語を上回る勢いである。どんどん新しく入ってくるが廃れるのも速い。

さらに付け加えるならば日本語の基本母音は5つであり、子音は有声音と無声音に弁別される。長母音と短母音の区別がある²⁾。

2) 小川芳夫他(1982)『日本語教育事典』大修館書店p56

3.2 中国の受容のあり方

中国語の基本音節は (C) V (C) であるが、語末の子音は鼻音である。さらに基本母音は 3 つで、その異音が 12 ある。単母音と二重母音、三重母音がある。子音には有気音と無気音の弁別機能があり、有声音と無声音の弁別機能はない³⁾。

中国では外国の事物や概念を表現する場合に、3 つの方法がある。第 1 はその意味を漢字の意味で表現する。第 2 は漢字の音を利用して外国語をそのまま取り入れる。第 3 は音を表す漢字に意味を表す漢字を 1 字付け加えて複合語にする。

「中国的外来語受容法⁴⁾」からいくつか例を引用して下記に示す。

第 1 の例：

電視机 (dianshiji ⁵⁾) テレビ	夏印 (fuyin) コピー
軟件 (ruanjian) ソフトウェア	鼠標 (shubiao) マウス (パソコン)

コンピューター関係の用語はほとんどここに分類される。

第 2 の例：

伊拉克 (yilake) イラク	紐約 (niuyue) ニューヨーク
哆啦A夢 (duolaeimeng) ドラエモン	可口可樂 (kekoukele) コカコーラ

外国の地名や人名、商品名やブランド名などである。

第 3 の例：

比薩餅 (bisabing) ピザ[pizza+餅]	芭蕾舞 (baleiwu) バレエ[ballet+舞]
愛滋病 (aizibing) エイズ[AIDS病]	啤酒 (pijiu) ビール[beer+酒]

3.3 韓国の受容のあり方

韓国語の基本音節構造は(C)(S)V(V)(C)であり、閉音節の構造である。母音は 8 つで、長母音と短母音の区別がある。子音は有気音（激音）と無気音（平音）、無気音（濃音）で弁別される。有声音と無声音の弁別はない。無気音（平音）は語頭では無声音[p][t][k][ʃ]だが、語中で有声音化する⁶⁾。

韓国では 3 通りの受け入れ方がある。第 1 は欧米外来語。欧米の外国語から直接取り入れたもの。第 2 は日本を経由したもの。第 3 は韓国製外来語である。

以下は「韓国における外来語⁷⁾」によってその事情をまとめたものである。

第 1 の欧米外来語は英語学習がブームとなっていて、それに伴った英語起源の外来語

3) 小川芳夫他(1982)『日本語教育事典』大修館書店p.57

4) 井上優 (2003) 「中国的外来語受容法」『日本語学2003.7Vol.22』明治書院

5) ピンイン表記

6) 小川芳夫他(1982)『日本語教育事典』大修館書店p.57

梅田博之 (1985) 『NHKハングル入門』日本放送出版協会pp.20 21

7) 曹喜澈 (2003) 「韓国における外来語」『日本語学2003.7Vol.22』明治書院

の流入は大きな流れになっていて、コンピューター関係の用語はほとんど外来語である。

第1の例： internet → 인터넷

第2の外来語は、日本を経由して入ってきたので日本語の訛りがあったり、変形したりしたまま使用される場合もあった。しかし近年は語彙だけ取り入れて、発音は韓国の外来語表記に従って使う場合が多い。

第2の例： puncture → 펑크 (和製英語)

第3の韓国製外来語は2002年の日韓ワールドカップを契機に多数造語された。

一方増加の兆しを見せる外来語に対して、韓国政府が抑制政策を打ち出している。2003年に発表された「国語基本法（案）」では韓国語の使用と淳化を謳い、「国家は不要な漢字語、外来語、新しく入ってきた外国語に対してわかりやすい韓国語に淳化するなど、正しい国語使用を確立するための対策を講じなければならない」として、外来語の増加は常に問題視され、固有語や漢字語に言い換えられることもある。

3.4 日中韓の外来語受容の比較

外来語の流入に制限があるかどうかという基準でみれば、韓国と中国は制限があり、それに対して日本は制限がない。従って外国語を自国語に言い換えることを積極的に行っているのも中国と韓国である。日本は明治時代とは違って現在は積極的な言い換えは行っていない。

中国と韓国を比べると政策的な制限があっても韓国国内では英語学習熱の高まりから英語、あるいは英語もどきもの、つまり外来語が発生する比率は非常に高くなっていると見られる。また韓国の中には日本式の発音の外来語や和製英語なども馴染む環境がいくらか残っていると見られる。

中国では中国製外来語とも呼ぶべき複合語の音の部分から原語を再生し、類推することが原語の学習者、ここでは英語学習者には可能だと見られる。中国でも複合語を含めれば外来語は相当数入っていると考えることができるのではないだろうか。

外来語を聞いて認知する場合、母音で終わる開音節の言葉の場合、認知しやすいと想像される。このことは中国人学習者にも韓国人学習者にも当てはまるであろう。この点は母語からの正の干渉と言えるであろう。

問題は閉音節を含む言葉である。日本語は子音に母音をつけて開音節化する。中国語の外来語の作り方では母音をつけて開音節化する場合と、音節末の子音を削除して母音を残すかさらに削除した子音の代わりに母音を付け加える場合が見受けられる。さらに中国語の基本母音と多くの異音、二重母音、三重母音の存在は同じ英語の言葉でも母音すら日本語の外来語とは異なって聞こえていることを暗示するものである。

韓国語では閉音節の音節末の子音を、そのまま子音として受け入れる場合と母音を付

け加える場合とがある。母音を付け加えた場合は日本語の外来語と似た響きに聞こえる。これは母語からの正の干渉と言えるだろう。

子音のままの例： book → 북 ブック

母音を付け加えた例： toast → 투스트 トースト

韓国語でも基本母音が日本語より多いので、母音空間⁸⁾の中での一つの母音の縄張りが日本語より細かく分割されている。さらに日本語にない二重母音の存在があり、母音の音は日本語の外来語とは異なって聞こえているであろう。

さらに日本語にある有声音と無声音の弁別機能が中国語にも韓国語にもないので、聞き間違いの可能性は高いと言えるだろう。

これらの点は母語からの負の干渉ということができるであろう。

こうした英語とも母国の外来語とも違う日本語の外来語をどのように認知していくのかを見ていきたい。

4. 調査の目的と方法

4.1 調査の目的

こうした母語の特質と外来語の受容の違いを踏まえて、韓国人学習者と中国人学習者が外来語の認知方法として英語の知識を活用するのか、母語の外来語の知識を活用するのか、それとも日本語の知識を活用するのかを明らかにし、韓国人学習者と中国人学習者の特徴と相違点を明らかにしたい。

4.2 調査対象者

中国の大連理工大学の学生10名と韓国の中央大学の学生10名である。大連理工大学の学生のうち5名(ch6～ch10)が日能試1級合格者で、残り5名(ch1～ch5)が日能試2級合格者であり、韓国の中央大学の学生10名は日能試1級合格者である。英語の学習歴は両大学の学生ともに第一外国語として大学入学以前から学んでいたが、具体的なレベルは確認していない。

4.3 調査期日

大連理工大学の調査は2010年3月2日である。

中央大学の調査は2010年3月31日である。

8) 「母音空間とは、母音が作り出されるときに口の中で舌がどのような位置にあるかを示したもので、・・・この母音空間はすべての人間に共通したものであり、この空間をどのように分割するかによって特定言語の母音体系が決まってくる。」窪蘭晴夫(1999)『日本語の音声』(岩波書店) p.26

4.4 聞き取りテストと認知アンケートの実施方法

作業手順1：文脈ありテスト20問と文脈なしテスト20問を用意する。

作業手順2：日本人の東京語話者が3回ほど読み上げる。調査対象者がそれを聞いて、聞き取った外来語をカタカナで記入する。

作業手順3：外来語を英語で書く。意味を母語で書く。

作業手順4：認知アンケートに答える。認知方法が日本語か母語か英語か文脈かを答える。

4.5 聞き取りテストの内容

語彙の選定にあたっては日本語の外来語として既習でよく耳に馴染んでいるものは少なく、英語でよく聞くものを多くした。既習でよく知っているものは日本語で認知したという答えが多くなると想定したからである。それでリーディングチュウ太の級外の語が多くなった。調査時期はバンクーバーオリンピック開催と時期が重なったので、オリンピックでよく使われている言葉を選んだ。また同時期にアメリカでトヨタ自動車の大規模なリコール問題が起き、連日報道されていた。それでそこから言葉を選んだ。

全体としてテレビや新聞でよく使われている外来語を選んだものである。

リーディングチュウ太の語彙レベル（日能試の級）数は以下のとおり。

文脈なしテスト（外来語1）語彙レベル：級外17語・1級2語・2級1語

文脈ありテスト（外来語2）語彙レベル：級外16語・1級1語・2級3語

表1 外来語1（文脈なしテスト）

1. ショック	[1級]	11. ショートトラック	[級外]
2. クロスカントリー	[級外]	12. フロアマット	[級外]
3. サークス	[級外]	13. キャッシュ	[級外]
4. リコール	[級外]	14. マクドナルド	[級外]
5. フルタイム	[級外]	15. アイスシアター	[級外]
6. センター	[2級]	16. アウトレット	[級外]
7. ファン	[1級]	17. トークイベント	[級外]
8. テロップ	[級外]	18. ホットショット	[級外]
9. ノルディックスキー	[級外]	19. コンセプト	[級外]
10. リラックス	[級外]	20. プレーヤー	[級外]

表 2 外来語 2 (文脈ありテスト)

ホテルの (1 ロビー) で待ちます。 [2 級]
私は別の (2 ルート) で行きます。 [級外]
彼は (3 トップ) (4 アスリート) [2 級] [級外]
として世界 (5 チャンピオン) の [級外]
(6 タイトル) を取った。 [1 級]
選手は大きな (7 プレッシャー) をかかえていた。 [級外]
(8 インストラクター) の指示にしたがって踊った。 [級外]
政府は最低限の生活ができるように (9 セーフティーネット) を作らなければならない。 [級外]
今年は新型 (10 インフルエンザ) の (11 パンデミック) は起こらなかった。
[級外] [級外]
彼は (12 マジック) が上手で、だれもその (13 トリック) がわからない。
[級外] [級外]
その (14 エッセー) を読むと、もう春の中にいるように感じる。 [級外]
体の不自由な老人を手伝うために (15 ホームヘルパー) が週 3 回来る。 [級外]
入学試験に合格した私は (16 ラッキー) だ。 [級外]
(17 ピーターラビット) の出てくる童話は楽しい。 [級外]
毎朝 (18 コーヒーショップ) に寄る。 [2 級]
今年の新型車は (19 ハイブリッド) 車に (20 モデルチェンジ) した。
[級外] [級外]

表 3 外来語 1、外来語 2 と対応する英語と、中国語の漢字と発音 (ピンイン) の表

	日本語	英語	中国語ピンイン	中国語漢字
	外来語 1			
1	ショック	shock	chongji	冲击
2	クロスカントリー	cross country	yueye saipao	越野赛跑
3	サーカス	circus	zaji	杂技
4	リコール	recall	bamian	罢免
5	フルタイム	fulltime	quanban	全班
6	センター	center	zhongxin	中心
7	ファン	fan	mi	迷
8	テロップ	telop	zimu	字幕

9	ノルディックスキー	nordic ski	julisai	距离赛
10	リラックス	relax	fangsong	放松
11	ショートトラック	short track	duandao su hua	短道速滑
12	フロアマット	floor mat	dianzi diban	垫子 地板
13	キャッシュ	cash	xianjin	现金
14	マクドナルド	macdonald	maiketangna	麦克唐纳 ※
15	アイスシアター	ice theater	bingshang juyuan	冰上剧院
16	アウトレット	outlet	lianjiapin	廉价品
17	トークイベント	talk event	jianghua jihui	讲话 集会
18	ホットショット	hot shot	you caineng	有才能
19	コンセプト	concept	guannian	观念
20	プレーヤー	player	xuanshou	选手
	外来語 2			
1	ロビー	lobby	qianting	前厅
2	ルート	route	路線	路线
3	トップ	top	zuigaoji	最高级
4	アスリート	athlete	yundongyuan	运动员
5	チャンピオン	champion	guanjun	冠军
6	タイトル	title	jinbiao	锦标
7	プレッシャー	pressure	yali	压力
8	インストラクター	instructor	jiaolian	教练
9	セーフティネット	safty net	anquanwang	安全网
10	インフルエンザ	influenza	liuxingxing ganmao	流行性感冒
11	パンデミック	pandemic	manyang	蔓延
12	マジック	magic	moshu	魔术

13	トリック	trick	xifa	戏法
14	エッセー	essay	suibi	随笔
15	ホームヘルパー	home helper	jiating fuwuyuan	家庭服务员
16	ラッキー	lucky	xingyun	幸运
17	ピーターラビット	peter rabbit	bide	彼得 ※
18	コーヒーショップ	coffee shop	kafeidian	咖啡店 ※
19	ハイブリッド	hybrid	hunhewu	混合物
20	モデルチェンジ	model change	xinghao gaibian	型号改变

注) ※の言葉は英語の音を漢字音で表現した外来語と、音の漢字と意味の漢字を組み合わせた複合語である。3語だけでそれ以外は全部中国語固有語である。

表 4 外来語 1、外来語 2 が対応する英語と、韓国語のハングルと IPA 発音の表

	日本語	英語	ハングル	韓国語IPA
	外来語 1			
1	ショック	shock	쇼크	ʃokʰw ※
2	クロスカントリー	cross country	크로스컨트리	kʰwurosʉ kʰɔntʰuri ※
3	サーカス	circus	서커스	sɔ:kʰɔsw ※
4	リコール	recall	리콜	rikʰo:l
5	フルタイム	fulltime	풀타임	pʰultʰaim
6	センター	center	센터	sentʰɔ
7	ファン	fan	팬	pʰɛn
8	テロップ	telop	텔롭	tʰellop
9	ノルディックスキー	nordic ski	노르딕스키	norʉdik sukʰi ※
10	リラックス	relax	릴랙스	rilleksʰw ※
11	ショートトラック	short track	쇼트트랙	ʃotʰw tʰwrek ※
12	フロアマット	floor mat	플로어매트	pʰulloɔ metʰw ※
13	キャッシュ	cash	캐시	kʰɛʃi ※

14	マクドナルド	macdonald	맥도날드	məkdonaldu ※
15	アイスシアター	ice theater	아이스시어터	aisu fiotʰɔ ※
16	アウトレット	outlet	아웃렛	aut ret
17	トークイベント	talk event	토크이벤트	tʰokʰu ibentʰu ※
18	ホットショット	hot shot	핫샷	hat ʃot
19	コンセプト	concept	컨셉트	kʰɔnseptʰu ※
20	プレーヤー	player	플레이어	pʰulleio ※
	外来語 2			
1	ロビー	lobby	로비	robi
2	ルート	rout	루트	ruthu ※
3	トップ	top	톱	tʰop
4	アスリート	athlete	에트리트	ɛʰurithu ※
5	チャンピオン	champion	챔피언	ʃʰempʰiɔn
6	タイトル	title	타이틀	tʰaitʰul ※
7	プレッシャー	pressure	프레셔	pʰureʃɔ ※
8	インストラクター	instructor	인스트럭터	insutʰurɔktʰɔ ※
9	セーフティネット	safty net	세이프티네트	seiphuthi netʰu ※
10	インフルエンザ	influenza	인플루엔자	inphulluendza ※
11	パンデミック	pandemic	판데믹	pʰandemitkʰu ※
12	マジック	magic	매직	mɛdʒik
13	トリック	trick	트릭	tʰurik ※
14	エッセー	essay	에세이	esei
15	ホームヘルパー	home helper	홈헬퍼	hom helpʰɔ
16	ラッキー	lucky	러키	rɔkʰi
17	ピーターラビット	peter rabbit	피터래빗	pʰitʰɔ rebit
18	コーヒーショップ	coffee shop	커피숍	kʰɔpʰi ʃop

19	ハイブリッド	hybrid	하이브리드	haiburidu ※
20	モデルチェンジ	model change	모델체인지	model tʰeindʒi

注) 韓国語の外来語はすべて英語の音に基づいている。※は語中や語尾で母音が続かない子音に母音を添加しているもの。全部で23語ある。

5. 調査の結果

5.1 中国人学習者の結果

表 5 聞き取り正答数と認知（意味到達）数の相関（外来語 1）

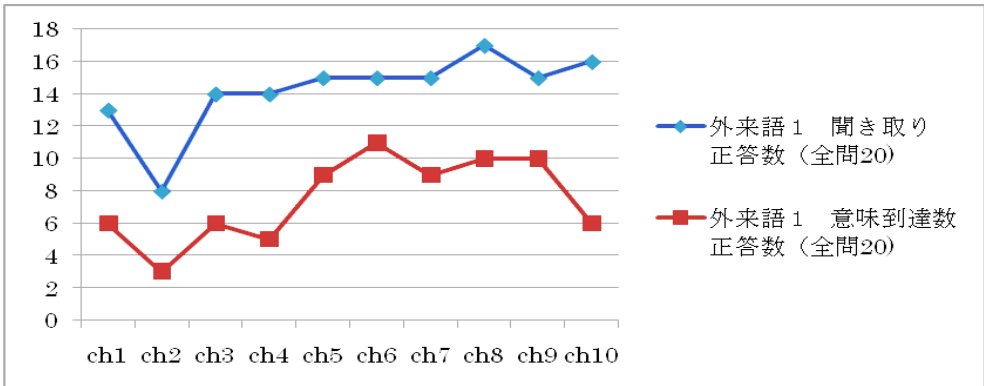


表 6 聞き取りの正答数と認知（意味到達）数の相関（外来語 2）

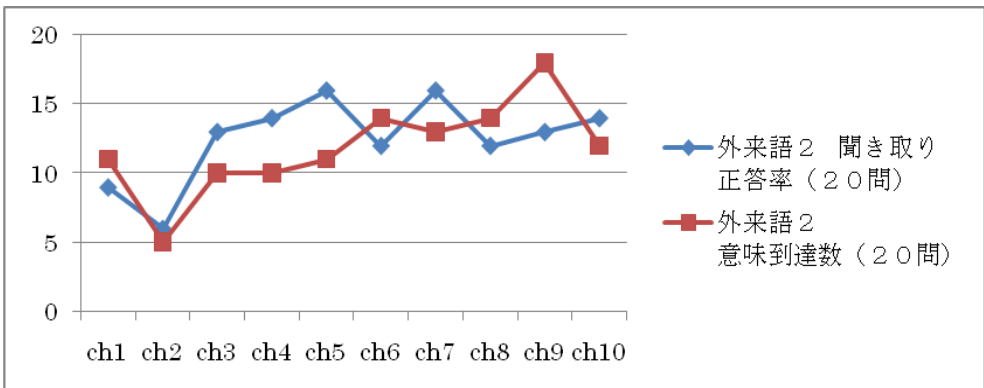


表7 英語、日本語、中国語による認知率（外来語1）

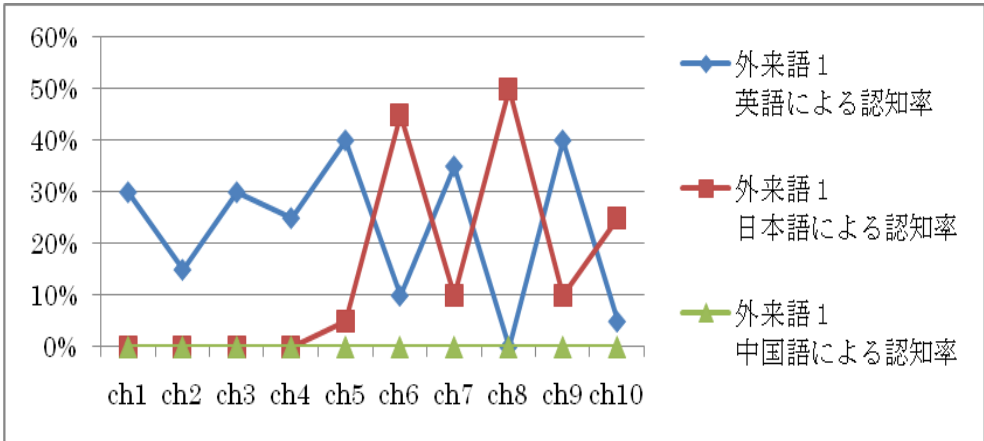


表8 英語、日本語、文脈、中国語による認知率（外来語2）

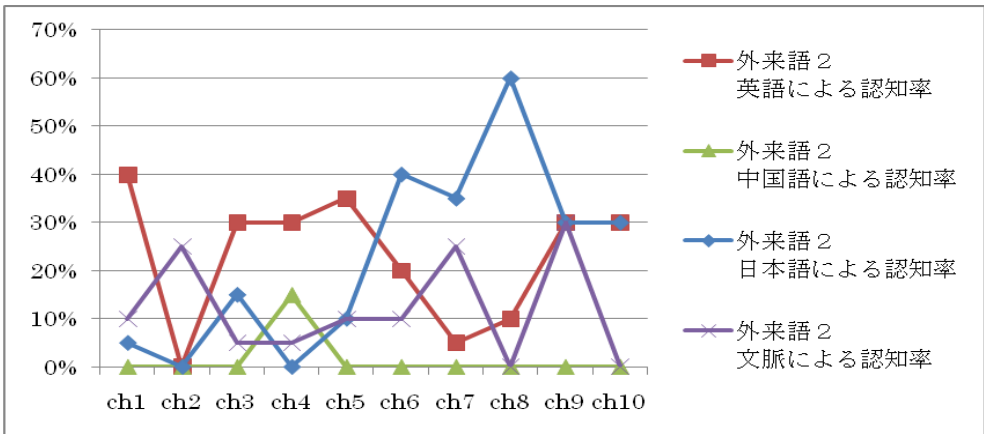


表3にあるように、外来語1、外来語2の中で、英語の音に基づく外来語は3語しかなかった。

「マクドナルド」、「ピーター（ラビットは対応する言葉を見つけることができなかった）」が漢字音を英語の音に対応させた外来語と考えられる。もう一つは「コーヒーショップ」であるが、「コーヒー」に対応する漢字音と「ショップ」の意味に対応する漢字で作られた複合語である。この3つは中国語の中から意味に達する可能性をもった言葉である。

それ以外の言葉は英語の助けを借りるか日本語の助けを借りるか、外来語2の場合は文脈の助けも借りて認知（意味に到達）せざるをえない。

表5の外来語1を見てみると、ほとんどの人が半分以下しか認知できていない。表6の外来語2を見てみると、ほとんどの人が半分以上認知できている。外来語1と比べてはるかに

認知できた回答数が増加している。これは文脈の助けが大きいのではないかと考えられる。

どのようにして認知したかを表 7、表 8 からみてみよう。

表 7 の外来語 1 では日本語のみで認知した人は 1 人で、英語のみで認知した人は 4 人、中国語のみで認知した人はゼロであったが、日本語と英語の両方を使って認知した人は 5 人で、最も割合が高かった。両方を使って認知した人のうち、日本語より英語が上回っている人が 3 人で、英語より日本語が上回っている人が 2 人であった。

表 8 の外来語 2 では日本語のみ、英語のみ、中国語のみで認知した人はそれぞれゼロであった。しかし文脈のみで認知した人が 1 人いた。

つぎにどのような組み合わせで認知したかを見てみよう。もっとも多い組み合わせが英語と日本語と文脈の 3 つを使って認知したグループで 6 人、英語と日本語を使って認知したグループは 2 人、最後のグループは英語と中国語と文脈の組み合わせで 1 人だった。

外来語 1 も外来語 2 も英語の助けを借りて意味に到達する割合が高いが、日本語による認知率も高く、文脈を合せた日本語による認知率は外来語 2 においては英語による認知率とほぼ互角である。

特に ch6 から ch10 までの 1 級合格者において日本語の活用が顕著である。一方、外来語 1 の場合、ch1 から ch5 までの 2 級合格者は英語の認知率が高い。外来語 2 のような文中の単語であれば、2 級合格者の日本語による認知も増えてくる。

中国語による認知は 1 人だけである。外来語 2 の「ロビー」「チャンピオン」「インフルエンザ」を中国語の助けを借りて認知している。これらは中国語の中で対応する外来語がない言葉である。正式に外来語として認められなくても使用されているのかもしれない。

また、中国語の外来語として認められている「マクドナルド」は 6 人が認知できたが、英語による認知が 1 人で日本語による認知が 5 人であった。中国語によって認知した人は 1 人もいなかった。中国語では「maiketangna」(ピンイン)と発音するので日本語の発音とはかなり異なった印象をうけるからかもしれない。

「ピーター」は文脈で認知できた人が 1 人だけで、知名度が低くむずかしかったと思われる。

「コーヒーショップ」は 10 人全員が認知できたが、英語による認知が 4 人で、日本語による認知が 5 人、文脈による認知が 1 人であった。中国語で認知した人は 1 人もいなかった。

日本語で認知した単語の中で 8 人が「インフルエンザ」を挙げている。さらに 7 人が「ロビー」を挙げ、5 人が「マクドナルド」を挙げている。

文脈を活用して認知に至った言葉は 14 種類あるが、回数が最も多いのは「ルート」であり、「エッセー」「ホームヘルパー」「アスリート」「セーフティネット」など複数回の文脈活用が見られる。

表 5 と表 6 の「聞き取りの正答数と認知数の相関」をみると、表 5 の外来語 1 では 10 人全員の聞き取りの正答数が認知数を上回っている。ここでは聞き取りはできるが意味はわ

からないという傾向が見られる。一方、表6の外来語2では4人の認知数が聞き取りの正答数を上回っている。ここでは正確に聞き取れなくても認知できる人が出てきているのだ。

聞き取りの目立った誤謬は、有声・無声音の混同や長音の欠落、長音と撥音、促音の混同が見られた。ア音をワ音で聞くというような単母音と二重母音の誤りもあった。

中国語と日本語の特性の相違から生まれる誤謬である。

5.2 韓国人学習者の結果

表9 聞き取り正答数と認知（意味到達）数の相関（外来語1）

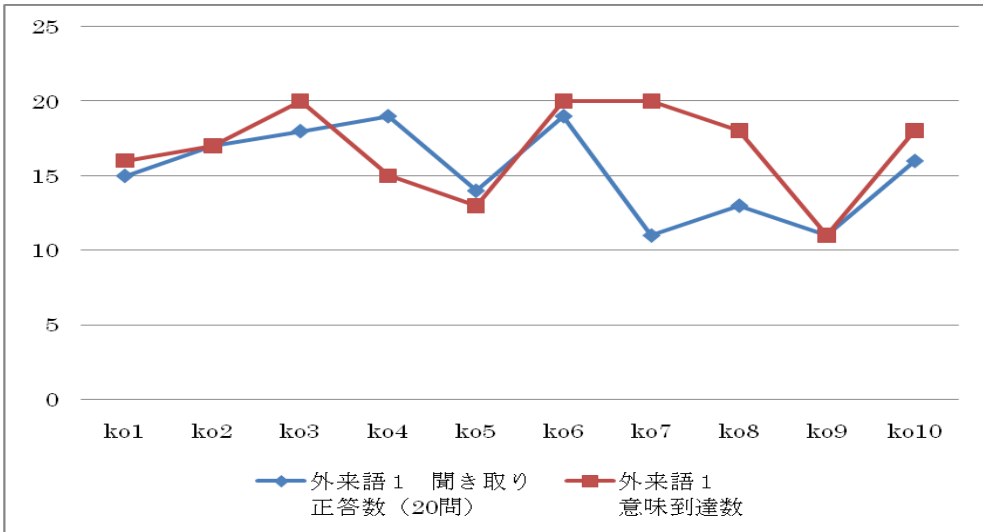


表10 聞き取りの正答数と認知（意味到達）数の相関（外来語2）

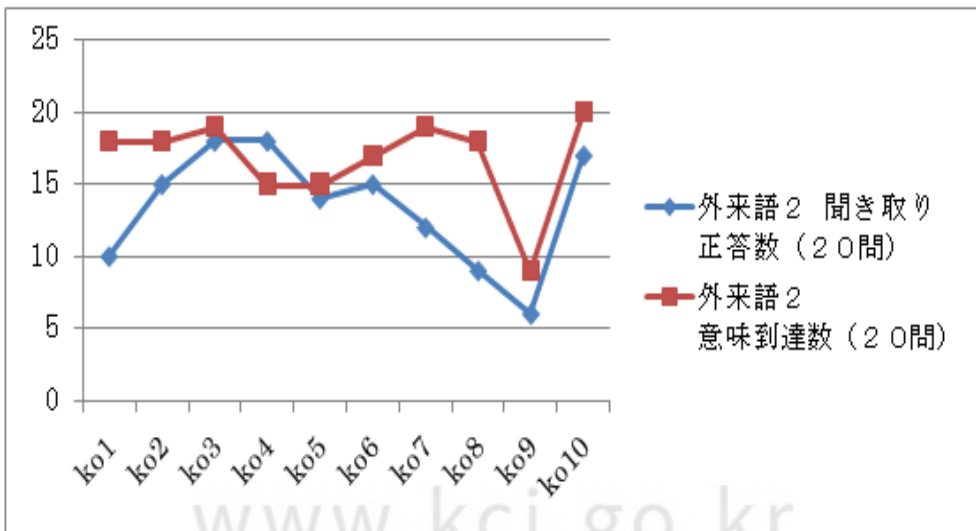


表11 英語、日本語、韓国語による認知率（外来語 1）

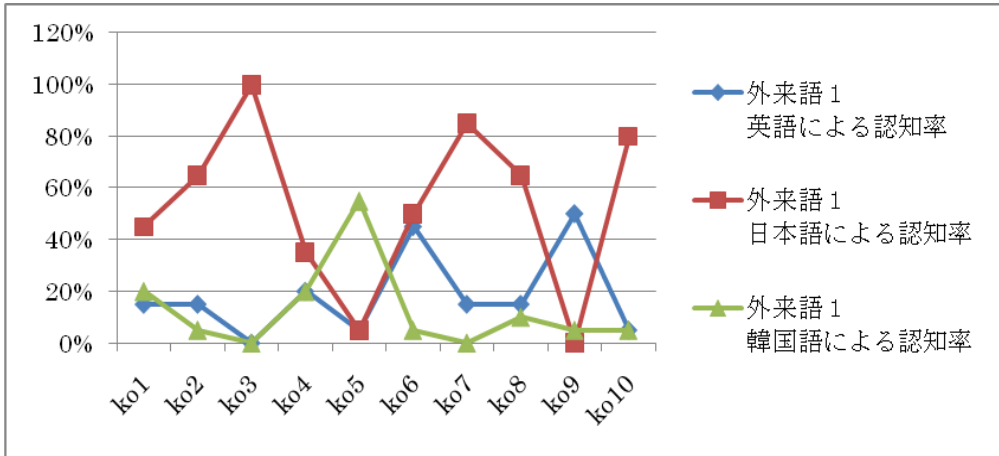


表12 英語、日本語、文脈、韓国語による認知率（外来語 2）

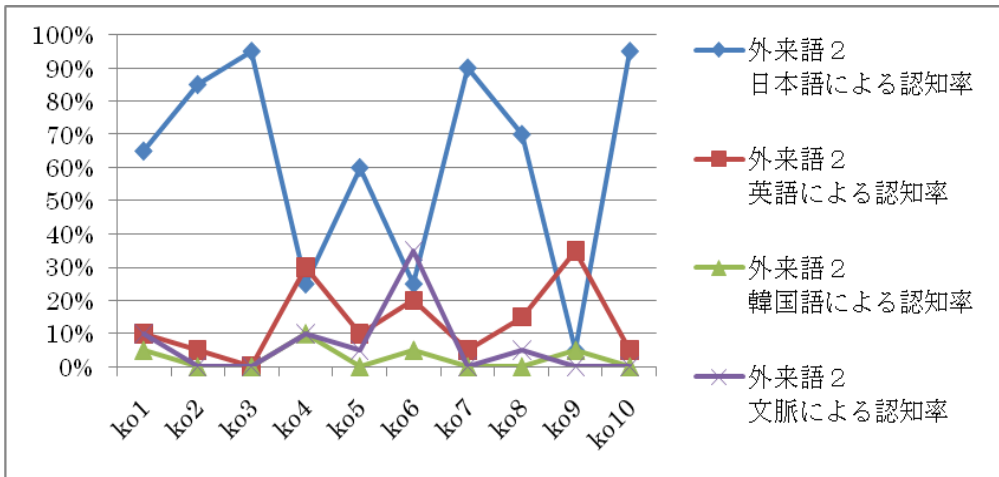


表 4 にあるように、ここで取り上げた韓国語の外来語は英語の音に基づいているものである。さらに40語のうち23語が英語の子音連続の箇所や語末の子音に母音を添加している。開音節化しているのである。日本語の外来語も同じように開音節化しているので、日本語の外来語と発音の印象が似てくると思われる。

実際の調査の結果では、表 9、表10にあるように、どちらにも共通しているのは聞き取りの正答数より認知（意味到達）数のほうが高い数字を示していることである。正確に聞き取れなくても意味の類推が可能だということである。

次に共通しているのは表11、表12にあるように英語よりも韓国語よりも日本語によって認知

に至っているということである。ただし表11の1人が韓国語による認知率が60%に達している。表12にあるように外来語2では認知の手段として文脈も付け加えたが、文脈の認知への寄与は大きくない。

全体として外来語の特殊性ということよりも日本語として聞いて理解しているということである。背景には韓国語の開音節化した外来語の存在があると考えられる。近似した発音として聞こえるので、日本語で認知できたとしても韓国語の中の外来語の力も大きいと考えざるをえない。

聞き取りの誤謬では母音の聞き間違いはなかった。語末での単母音と長母音の混同が多く見受けられ、また有声音・無声音の混同や、撥音・促音・長音の混同や混入などが多かった。

韓国語と日本語の特性の相違から生まれる誤謬である。

6. 両者の聞き取りと認知の傾向

両者の顕著な相違点は、中国人学習者の聞き取りの正答数が認知数より高いのに対して、韓国人学習者の認知数が聞き取り正答数より高いことである。つまり、聞き取りを誤っても意味はわかるということである。もちろん例外もあるが、全体の傾向はこのように言えるであろう。

次の相違点は認知手段に関するものである。中国人学習者は全体的に英語と日本語の助けが半々ぐらいの比率である。それに対して韓国人学習者はほとんど日本語の助けによって認知、つまり意味に到達しているのである。

中国人学習者が中国語の助けをほとんど受けないのに対して、韓国人学習者は韓国語によって認知している割合が英語には及ばないとしても少なからずあるのである。

中国人学習者は文脈のある単語の理解率が高く、文脈の助けで認知している割合が高い。それに対して、韓国人学習者は文脈に依存する割合が非常に低い。

これは、中国語の中に外国語がそのままの形で入ってきていないために、中国語の中で類似のものを探せないためであると考えられる。それに対して、韓国語の中にはそのままの外国語が外来語として入ってきているので、類似の言葉を探しやすいのだと考えられる。しかも日本語の外来語と同じように開音節化した外来語が多いので、それが英語ではなく、日本語によって認知したという比率が高くなる理由だと考えられる。

7. 今後の課題

外来語の認知の問題としてはやっとならに就いたばかりである。今回は外来語として未習のものと既習のものを混ぜて聞き取りテストを作成したが、未習と既習を分けて別々の聞き取り

テストを実施した場合はもっと違った結果が出た可能性がある。また中国人学習者や韓国人学習者の英語レベルをもっと細かく判定したほうがよかったかもしれない。早い人では小学生の時から、遅い人でも中学生の時から英語を第一外国語として勉強してきているので、十分英語の単語には慣れてしていると想定していたが、調査をすればまた違った結果が出た可能性がある。また、調査の過程で正確な聞き取りはできなくても認知できた例がかなりあったので、その理由を深める必要があったが、本稿では十分に検討することができなかった。こうした点を今後の課題としたい。

今後の課題としては、今回の調査研究で明らかになった日中韓の外来語の特性や規模、定着度などを更に調査し、外国語と接触した場合のそれぞれの言語に与える影響を明らかにすることとしたい。また、ピジン語とかクレオール語といった言語接触の視点から外来語を再構築したい。

認知の面からも日中韓3か国の外来語による共通性と異質性を明らかに日本語教育に役立てたい。

【参考文献】

- 石綿敏雄(1991)「外来語の歴史」『講座日本語と日本語教育第10巻日本語の歴史』(明治書院)
- 井上優(2003)「中国的外来語受容法」『日本語学2003.7Vol.22』(明治書院)
- 梅田博之(1985)『NHKハンゲル入門』(日本放送出版協会) pp.20-21
- 小川芳夫他(1982)『日本語教育事典』(大修館書店)pp.56-57
- 窪園晴夫(1999)『日本語の音声』(岩波書店) p.26
- 陣内正敬(2003)「外来語の課題と将来像」『日本語学2003.7Vol.22』(明治書院)
- 関根健一(2003)「新聞記事の中のカタカナ語」『日本語学2003.7Vol.22』(明治書院)
- 喜喜澈(2003)「韓国における外来語」『日本語学2003.7Vol.22』(明治書院)
- 松本洸司(1982)「外来語の歴史」『講座日本語学 4 語彙史』(明治書院)
- 水谷修(2003)「日本語の国際化と外来語」『日本語学2003.7Vol.22』(明治書院)
- 国際交流基金(1978)『日本語はつおん英語版』(凡人社)

要 旨

外来語は外国から入ってきた借用語であるが、日本では主として欧米から入ってきた言葉を指すようになってきている。近年は世界的なグローバリゼーションの中で英語は突出した地位をしめるに至っている。韓国でも中国でも日本でも第1外国語として中学や高校で習う外国語はほとんど英語である。

日本ではそうした英語起源の言葉が日本語として定着していく過程で、日本風の音に変化していく。また、韓国や中国での英語の語彙の受容の違いもある。中国と韓国の日本語学習者が日本語の外来語を聞いてその意味に達する時に英語の力によるのか、自国の中の外来語の力によるのか、日本語でそのまま理解しているのかということを調査の目的とした。

調査の結果として、中国人学習者の聞き取りの正答率が意味到達率より高いのに対して、韓国人学習者の意味到達率が聞き取り正答率より高いことがわかった。つまり、聞き取りを誤っても意味はわかるということである。もちろん例外もあるが、全体の傾向はこのように言えるであろう。

次の相違点は認知手段に関するものである。中国人学習者は全体的に英語と日本語の助けが半々ぐらいの比率である。それに対して韓国人学習者はほとんど日本語の助けによって認知しているのである。

キーワード：外来語、英語起源、グローバリゼーション、母語、認知、類推、正答

투 고 : 2011. 8. 31
1차 심사 : 2011. 9. 10
2차 심사 : 2011. 10. 1